

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校北勢きらら学園）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○児童生徒一人ひとりが、快適に学び、確かな成長・発達を遂げ、それぞれの個性に応じた自立と社会参加が実現できるように支援する学校
		○特別支援教育の専門性の向上を図り、地域におけるセンターとしての機能を発揮できる学校
(2)	育みたい児童生徒像	○「なりたい自分」や「将来のあるべき姿」を思い描き、その実現に向けて、人とつながりながら学ぶことができている ○社会の一員として地域で生活するために必要なキャリアを身につけることを意識して、学習活動を行うことができている
	ありたい教職員像	○児童生徒、保護者のニーズや願い、発達段階に応じて、キャリア教育の視点を大切にした指導ができている ○保護者や医療機関等と連携を図り、常に児童生徒の安全と健康を意識し、子どもたちの立場に立った指導ができている ○校内研修や自主研修の場を通して、特別支援教育に関する専門性が高められている ○同僚性の高い職場で、互いに学び助け合いながら教育活動を行うことができている

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;児童生徒&gt; 個性に合わせた学習活動の充実と安心して楽しく学習できる環境 卒業後の自立と社会参加</p> <p>&lt;保護者&gt; 安全かつ個性に合わせた教育活動の充実 的確な進路指導</p> <p>&lt;地域&gt; 地域活動へのより積極的な参加と、防災の拠点としての立場</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p>&lt;家庭&gt; 家庭と連携して信頼できる教職員集団 子どもを大切にした指導</p> <p>&lt;福祉・行政・医療関係機関&gt; 地域での自立生活に向けての支援と指導、保護者との連携、情報提供</p> <p>&lt;地域&gt; 施設設備の開放や避難施設としての受け入れ態勢の整備</p>	<p>&lt;家庭&gt; 学校教育への参画と協力 キャリア教育における連携</p> <p>&lt;福祉・行政・医療関係機関&gt; 進路先の開拓・支援と福祉施設や就労先への指導・支援、健康管理のアドバイス</p> <p>&lt;地域&gt; 本校教育活動に対する理解と協力 教育活動の場、交流教育の機会の提供</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>・交流及び共同学習については、双方の学校で意義の共通理解を図り、丁寧な取組が必要である。</p> <p>・業務の多さにより教職員が無理をしている現状がある。過重労働時間の正確な把握と業務の更なる精査・効率化により、教職員の総勤務時間の縮減に取り組むことが必要である。</p> <p>・風通しの良い職場環境をつくり、保護者への丁寧な対応を大切に、信頼関係を築いていくことが必要である。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>・障がいの重度重複化、多様化が進んでおり、医療機関等との連携を行い、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した高品質な教育の実践を行うために、教職員の更なる専門性と授業力の向上が求められている。</p> <p>・卒業後の生活を見据え、自立と社会参加のために、居住地校交流や共同学習の充実とキャリア教育を視点とした教育活動が求められている。</p> <p>・特別支援教育のセンター的役割を發揮できる学校づくりを進めるために、医療・福祉などの関係諸機関との連携強化が求められる。</p>	

学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒と向き合う時間の他、放課後の会議、夜遅くまでの分掌業務や授業準備など、教職員の多忙感は解消されていない。業務や会議の精選や更なる効率化を行い、総勤務時間の縮減に取り組むとともに、不祥事を絶対に起こさず、教職員一人ひとりが安心して生き生きと業務を行えるよう、風通しの良い職場環境づくりが求められている。</li> <li>・防災意識を含めた教職員の危機管理意識を高め、児童生徒にとってより安全安心な学校運営が求められている。</li> <li>・地域と連携して地域に開かれた学校づくりを進めるために、学校ホームページの充実や学校見学会等、積極的な地域への情報発信が求められている。</li> </ul>
-------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた小中高一貫したキャリア教育を視点とした教育活動の充実を図る。</li> <li>・特別支援教育のセンター的役割を發揮できる学校づくりと、教職員の専門性と授業力の向上のために研修の充実を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりが健康で生き生きと業務が行えるように、総勤務時間縮減に向けた取組を行い、明るく同僚性の高い風通しの良い「チーム」としての教職員集団と職場環境づくりを図る。</li> <li>・医療や福祉関係諸機関、地域と連携を行うとともに、児童生徒の健康、安心安全、学校防災機能の強化、情報管理、人権の視点での危機管理意識の向上を図る。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育と教育課程編成	(1)「きららのキャリア教育プラン」をもとにキャリア教育プログラムの活用と新教育課程の編成を行う。 <b>【活動指標】</b> 各学部会および委員会で進捗状況の確認 <b>【成果指標】</b> 取組評価アンケートにより、成果が見られたと回答した教職員の割合:80%以上	・キャリア教育プログラムについては89%の教員が活用できた、わかりやすかったと回答した。	◎ ※
交流及び共同学習	(1)児童生徒及び保護者のニーズに応えた交流及び共同学習を実施する。 <b>【活動指標】</b> 事前研修や交流相手校との情報交換による円滑・効果的な交流の実施 <b>【成果指標】</b> 取組評価アンケートにより、概ね満足と回答した保護者の割合:80%以上	・教育課程委員会を4回、教育課程検討委員会を4回実施し、児童生徒の実態を考慮し、個々にあった教育課程と課題について検討した。	◎
人権と命とを大切にす教育	(1)人権と命を大切にする教育を組織的に実施する。 <b>【活動指標】</b> 各学部において「いのちの授業」の実施および児童生徒会での子どもの主体的な活動の支援 <b>【成果指標】</b> 取組評価アンケートにより、概ね満足と回答した保護者の割合:80%以上	・居住地校交流は31校と実施できた。 ・学校間交流、居住地校交流についての保護者の満足度は80%であった。	◎

改善課題

- ・新教育課程の編成を行ったが、全教職員がそれを理解し実施していくためには更に時間が必要である。
- ・交流および共同学習の目的と意義を、両校で確認をして共通理解をもって進めていく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業改善	(1)教職員の特別支援教育肢体不自由分野の専門性および授業力の向上のために研修を実施する。 【活動指標】計画的な職員研修会の開催 全校研修11回 【成果指標】取組評価アンケートにより、概ね満足と回答した教職員、参加者の割合:80%以上	・全校研修は、学習グループ単位、学部単位、縦割り小チーム単位、全校単位の4形態で年間を通して11回実施した。	◎
危機管理	(1)児童生徒の緊急対応および事故の未然防止に係る取組を充実させる。 【活動指標】毎月児童生徒の情報共有 医バック委員会11回 緊急対応訓練 全校訓練1回+個々訓練+心肺蘇生・AED 講習 【成果指標】校内での過失による事故ゼロ	また、療育システム部では「学ぼう DAY」を5回、ケース研究を2回実施した。 ・職員の満足度は89%であった。	◎ ※
不祥事根絶	(2)学校防災機能の強化の取組を進める。 【活動指標】避難訓練3回 防災マニュアルの見直し 県地区との合同避難訓練1回 【成果指標】取組評価アンケートにより、意識が向上したと回答した教職員の割合:80%以上	・医バック委員会を11回実施し、児童生徒のケアについて担任、看護師とで情報共有した。 ・医ケア緊急対応訓練を1回、カニューレ抜去時訓練を一人の児童生徒につき1回実施した。	◎ ※
組織運営	(1)風通しの良い職場づくりとリスクマネジメントの向上の取組を進める。 【活動指標】私の行動計画の策定 情報管理の徹底 コンプライアンス研修の実施 【成果指標】毎学期の自己評価および 校内での不祥事発生ゼロ	・心肺蘇生・AED研修を2回実施した。 ・1学期には火災時の避難訓練を、2学期3学期には地震時の避難訓練を実施した。	◎
	(1)教職員一人ひとりが健康で生き生きと業務が行える環境づくりを推進する。 【活動指標】会議の精選と効率的な運営(60分以内 75%) ノー会議デイの設定(木曜日) 定時退校日の設定(月1日) 学校閉校日の設定(1日) 年休取得実績の増加(前年比1日増加) 時間外労働時間の減10%(4.9時間→4.5時間) 【成果指標】取組評価アンケートにより 改善が実感できると回答した教職員の割合:80%以上 仕事にやりがいを感じていると回答した教職員の割合:80%以上	・教職員一人ひとりが私の行動計画を策定して、それをすべての教職員間で共有をして、学期末には自己評価を行った。 ・会議は勤務時間内に約80%が終了できた。 ・学習指導にやりがいを	◎

		感じている教職員 95%、分掌業務にやり がいを感じている教職 員 68%であった。	
--	--	---	--

### 改善課題

- ・限られた時間の中で、明日への授業に役立つ実践的な研修のために、内容の工夫と検討が必要である。
- ・「ひやりはっと」をみんなが共有して、事故の未然防止につなげていく必要がある。
- ・校長と教職員との意見交換が不十分である。

## 5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流および共同学習においては、その教育的効果を高めるためにも、双方の事前の準備が大切である。</li> <li>・学校給食における異物の発見があった。安心安全な給食の提供をお願いしたい。</li> <li>・肢体不自由教育の専門性を高める研修を推進してほしい。</li> <li>・管理職と教職員との意思疎通が重要である。</li> </ul>
-----------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程検討委員会を新たに立ち上げ、1年間かけて実施に向けた検討と準備を進める。</li> <li>・学校間交流、居住地校交流については、まずは双方の管理職間でその意義や教育的効果を確認しあい、相手校との打ち合わせや反省会、相手校への出前授業など、事前準備、事前・事後学習を丁寧に行う。</li> </ul>
学校運営につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、保護者から信頼される学校づくりのために、教職員が互いに学び高め合うよう、校内研修の工夫と充実を行い、専門性の向上を図る。</li> <li>・管理職と教職員とが自由に意見交換のできるオフサイトミーティングの実施と、管理職と保護者とが自由に話し合える場を設ける。</li> </ul>